

エゼキエルのしるし

キー・ヴァース「このように、エゼキエルはあなたがたへのしるしである。彼がしたすべてのことに従って、あなたがたもしなければならない。」

エゼキエル24:24

選ばれた聖句

エゼキエル24:15-27

エゼキエルのしるしは痛々しいほど深い。主が "あなたの目の望み" と言われた彼の妻が、"一撃で" 急死しようとしていたのだ。喪失感と悲しみはさらに深まり、主はエゼキエルに、悲しみを公にしてはならない、と命じられた。「あなたは嘆いてはならず、泣いてもならず、涙を流してはならない。静かにため息をつき、死者を悼んではならない。頭にターバンを巻き、足にサンダルを履き、唇を覆ってはならず、人の悲しみのパンを食べてはならない。それで、私は朝、人々に語った。夕方、私の妻は死んだ。"翌朝、私は命じられたとおりにした。エゼキエル24:16-18

エゼキエルがこの過酷な命令に耐えることができたのはなぜだろうか？従順と奉仕を特徴とする彼の神への生涯の献身が、根深い信仰を育んだのだろう。"たとえ主がわたしを殺されても、わたしは主を信じます。"とヨブが表現したような信仰である。ヨブ記13章15節

私たちは、神がエゼキエルの個人的な悲劇をイスラエルの国家的教訓に変えたとき、神の知恵が働いていたことを認識する。この二つの出来事はどのように関連していたのだろうか？それは "あなたの目の欲望 "である。エゼキエルにとって、それは妻だった。イスラエルにとって、それは国家政治の象徴であるソロモンの神殿だった。

イスラエル人は預言者の行動に好奇心を抱いたようだ。エゼキエルが妻を弔わなかったのは奇妙だったし、エゼキエルの行動にはしばしば神の意図と意味があることを知っていたからだ。彼らはそれについて尋ねた。人々は彼に言った。"あなたがそのようにふるまうことが、私たちにとって何を意味するのか、教えてくださいませんか。"エゼキエル 24:19

エゼキエルは彼らに答えた、「主からのメッセージが私に届いた。わたしは、あなたがたの安心と誇りの源であり、あなたがたの心が喜ぶ場所であるわたしの宮を汚す。ユダに残してきた息子や娘たちは剣で殺される。その時、あなたはエゼキエルがしたようにする。人前で嘆き悲しむことも、友が運んできた食べ物を食べて自分を慰めることもない。あなたがたの頭は覆われたままであり、サンダルは脱がされない。あなたがたは嘆くことも泣くこともなく、自分の罪のために衰え衰える。あなたがたは、自分たちの行ったすべての悪のために、自分たちの間でうめき悲しむであろう」 **20-23節**

神殿は破壊され、国家体制は解体され、イスラエルの民は捕囚となるか殺される。このように、エゼキエルは、キー・ヴァースで述べたように、「しるし」であった。災いは起こり、いくら悲しんでもそれを避けることはできなかった。イスラエルはバビロンに捕らえられた。イスラエルの民の良心は悲しみにさいなまれ、詩篇**137**篇にあるような美しい詩が生まれた。「バビロンの川のほとりで、私たちは座り、エルサレムを思って泣いた。私たちは琴をしまつて、ポプラの木の枝にかけた。捕囚たちは私たちに歌を求めた。私たちを苦しめた者たちは、喜びの賛美歌を要求した：エルサレムの歌を歌え』と！し

かし、異教の地にいながら、どうして主の歌を歌うことができようか。エルサレムよ、もし私があなたを忘れるなら、私の右手は琴の弾き方を忘れよう。もしあなたを思い出せず、エルサレムを私の最大の喜びとしないなら、私の舌が口の天井に張り付くように。"(詩篇137:1-6)。エゼキエルのしるしから、痛切な思いが湧いてくる。